

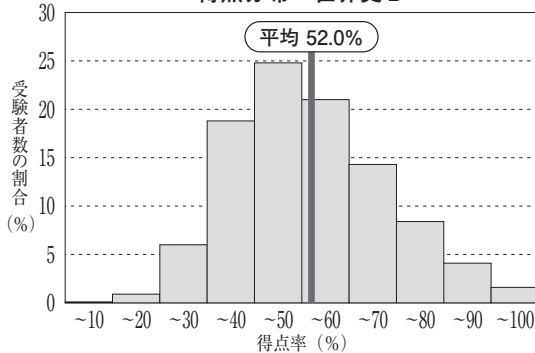
世界史B

近現代史の基礎力を着実に伸ばしていこう！

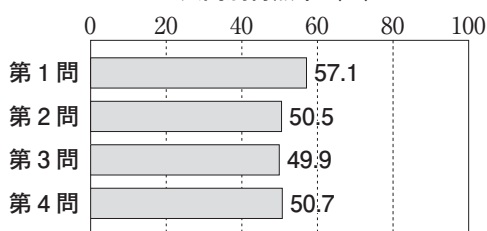
I. 全体講評

今回の平均点は、52.0点であった。前回に比べて5点近く上昇しており、世界史に関しては日々の学習の成果が上がっているようである。とくに古代・中世に関しては基本的な力が身につけてきたようである。それは、結果にあらわれている。たとえば、古代オリエントに関する第1問問6では正答率が84.3%に達した。また、中世ヨーロッパに関する第2問問1では65.5%であった。これに対して近代・現代に関しては基本的な力が身につけていないようだ。たとえば、近代中国史に関する第4問問4は正答率31.1%であり、現代アメリカ合衆国に関する第4問問9は26.3%であった。近現代史の基礎力を着実に伸ばしていこう。特定の問題形式についても課題が残った。前回の正答率が30%台と低迷した年代整序の問題は、今回も35.9%と芳しくなかった。ただし、今回の年代整序の問題は第3問問6のみで、現代史に関するものであったから、なおさらであったかもしれない。

得点分布 世界史B



大問別得点率 (%)



II. 大問別分析

第1問 宗教における異端

前近代は安定度をアップしよう。近代史は正確な知識を身につけよう。

第1問の得点率は57.1%で全大問中の最高値となった。これは古代オリエントのフェニキア人を問う問6の正答率が84.3%、西アジア史の基本であるアッパース朝の都の名とその位置を問う問5が78.4%と好調な結果が全体の得点率を押し上げた。これに対して軍隊についての正誤組合せの問8が23.7%と今回すべての問題でもっとも低かった。この理由は、フランス革命のフランス軍というトラマルセイエズを歌って集まった義勇軍をすぐに考えてしまうからであろう。この結果、56.3%の受験者がそう考えて間違えたようである。フランスでは1793年に徴兵制が実施されている。フィリピン独立を問う問7も正答率は34.3%と低かった。近現代史に不安が残る結果であった。ただキューバ危機を問う問9、「塩の行進」を問う問4は、ともに正答率はそれぞれ58.7%、65.9%と基本が押さえられているような結果であった。逆に、前近代で既に学習済みと思われるインノケンティウス3世についての問3の正答率が、52.4%は残念な結果である。これに対して近世南アジアのアクバルを問う問1、近代ヨーロッパのアダム＝スミスを問う問2がそれぞれ正答率が63.5%、60.3%は健闘したといえる。

第2問 同盟や結社

歴史的事項については、それぞれ正確な年代をおさえよう。

第2問の得点率が、50.5%という結果は、前近代を中心とする大問の結果としては不満足なものであった。十二表法が出された時期を問う問2が30.4%とこの大問の中で最も低いものだった。グラフを読み取る問6は南北戦争の時期が1861～65年、ヴィルヘルム2世の治世が1888～1918年ということがわかっていなかったため、正答率が32.8%と

低いものに終わった。この2問は歴史的事項の正確な年代をおさえることの重要性を教えてくれた。正文選択の問3は正答率38.6%であった。これはリード文を読まず、設問文だけで判断すると正文となってしまう。リード文の下線部②「神聖ローマ帝国」を読んで、該当しないと理解できる。リード文を読まずに解答すると失敗することの良い教訓となるであろう。正答率77.0%と大問中最も正答率が高かった上海の開港を問う問9は、横浜との関連で中学校で学んだのではと推測される。中世の都市同盟を問う問1、唐の歴史を問う問7、フランスの二月革命を問う問5、この3つの正答率が、65.5%、57.3%、57.6%で、基本が押さえられている結果と考える。これに対してルソーを問う問4の正答率は40.8%、元明を問う問8は41.7%とともに残念な結果であった。

第3問 世界史上の国境

近現代史の大枠をおさえて、基礎的事項は正確に覚えよう。

この大問の得点率は49.9%と全大問で最低であった。国境が本格化するのは近代以降なので、問題に近現代が多かった結果と考えられる。大問中最も良く出来ていたのは、マラッカ王国を問う問8で正答率が61.2%であった。前漢の呉楚七国の乱を問う問7も、オットー1世を問う問4もともに学習済みの事項か、53.5%、56.6%とまずまずの結果であった。これに対して核軍縮の年代整序の問題問6は、まだ学習がここまで進んでないのか正答率35.9%と低い結果であった。同じように中越戦争を問う問1、フランスの海外進出を問う問5はそれぞれ45.1%と46.2%と残念な結果であった。ロシア皇帝を問うa b 正誤組合せの問2、ロシアと清の北京条約の位置選択を問う問3は正答率51.1%と54.4%と健闘した。マテオ=リッチとカルヴァンの著作を問うa b 正誤問題問9は、マテオ=リッチの著作が難しかったか48.6%と低迷した。

第4問 世界史における農業

今回の模試を機に基本的歴史事項はかならず確認しよう。

大問の得点率は50.7%であった。大問の中で最も正答率が高かったのが囲い込みと産業革命の関連の問7で、正答率81.8%であった。囲い込み、農

業革命、産業革命は世界史の基本中の基本であることを踏まえれば、この結果は満足すべきものであった。メソポタミアの楔形文字を問う問2は、問題の写真が資料集、教科書で見慣れた楔形文字でなかったのに惑わされたか、74.8%と予想より低い数値になってしまった。正答率26.3%と低かったジョンソン大統領の政策を問う問9はまだ学習がここまで及んでない結果と考えるべきか。近代中国史の基本である太平天国の乱を問う問4は正答率31.1%と残念な結果であった。義和団の「扶清滅洋」と太平天国の「滅満興漢」を取り違えている受験者が40.8%もいたのは驚きだった。プロイセンの農奴を解放したシュタインを問う問8の正答率31.5%はプロイセン史の基本なので残念なものであった。古代史のササン朝の国教を問う問1の正答率46.9%は既習の内容とすると低い数字である。近世東アジアの誤文選択の問6、古代インド、古代アメリカの農業を問う問3、明の徐光啓を問う問5の正答率が、52.3%、53.6%、59.9%という数字は今後を見据えると頼もしい数字である。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆基本を確実に身につけよう。

センター試験では様々なテーマのリード文にもとづいて設問が出されるが、各小問自体は教科書レベルの基本的知識で十分に対応できるので、幅広い基礎力の養成がポイントとなる。その際に地図や図版などを合わせて参照し、立体的な学習に努めることを必ず実践してほしい。世界史は現代の世界に直結している。海外の時事的なニュースにも関心をもとう。

◆現時点の学力を正確に把握しよう。

どのような模試であれ、模試は受けた後の活用が大切である。模試の結果を分析して現時点での学力を正確に判断し、これからの学習計画にそれを反映させ、効果的な学習に努めよう。